

「一同は満腹した」

イザヤ書 第40章 9節～11節
マタイによる福音書 第15章 29節～39節

説教 岡村 恒 牧師

「一同の者は食べて満腹した。」(37節)大勢の群衆が、主イエスによって満腹して満ち足りたという話です。この出来事は、主イエスの深い憐れみによって実現しました。主イエスは、この人々をご覧になって、「かわいそうである」(32節)と言われました。人々が飢え、渴いているのをご覧になって、「彼らを空腹のままに帰らせたくない。恐らく途中で弱り切ってしまうであろう。」(32節)と憐れんで下さいました。主には、人が滅び去っていくことを、見過ごしにできないのです。食卓を用意し、パンを裂いて配り、満腹させて下さいました。

私たちは礼拝に来る時、空腹で、飢え乾いています。満腹することなく家路につくとしたら、途中で弱り切ってしまう。主イエスが用意して下さいました食事を頂いて満腹することなしに、生きることはできないのです。

この朝、神がこの礼拝を用意して私たちを招き集めて下さったのは、飢え渴く私たちを、神が憐れんで、この礼拝の奇跡の中で満腹させて下さるためです。142年前に、大阪教会が生みだされたのは神の御業、奇跡でした。2,000年前、弟子たちに聖霊が注がれてキリスト教会が生まれ、弟子たちが、飢え渴いた人々に主イエスの福音を語り始めたのも、全て、神の憐れみによって起こった奇跡です。

自分が飢え渴き、本当の命と無縁に歩み、死と滅びの絶望に押しつぶされそうになっていることを、私たちは気づくこともなく生きてきました。あの日、三日間も、食べることをさへ忘れて、ひたすら主イエスのお言葉だけを聞き続けてきた群衆も、自分自身が本当に何を必要としているか、十分に気づいていなかったでしょう。ただ、主イエスのもとに来て、主イエスのお言葉を聞き続けたのです。三日間、誰も自分の食べ物や飲み物について気にも掛けなかったようです。寝食を忘れるほどに、このお方のもとにすることが何ものにも代え難く大切だ、という方に会うことができたなら本当に幸いです。他に何もいららないと思える出会い、そういう時間と場所がありさえすれば、私たちの人生の問題は解決します。

主イエスはこの群衆をご覧になり、「かわいそうだ」と言われました。はらわたが揺り動かされるような神の憐れみを表す言葉です。主イエスは、人々の姿に、様々な苦悩と悲しみ、絶望をご覧になりました。そして、空腹で惨めな、

今にも弱り切って滅んでいくような私たちの真実の姿をご覧になりました。そして私たちの為に食卓を用意し、パンを与えて下さるのです。しかも、あふれるほど豊かな食事を。

主イエスは、私たちに命を与えるために、ご自分の命を犠牲としてお捧げ下さいました。十字架の上で、私たちのために祈り下さいました。「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。」(ルカによる福音書 23章34節)自分が何をしているのか分からない私たちを、主イエスはあわれんで下さいました。本当の命を持たず、滅び行く私たちのために、十字架に架かり、命を与え尽くすまでに私たちを愛して下さいました。

主イエスがパンを裂く場面は、いつでも聖餐の食卓を思い起こさせます。いや、正確に言うと、私たちが聖餐の食卓を囲むたびに、私たちはこの4千人の食事や、最後の晩餐、復活の主の食卓を思い起こします。主イエスが、今ここにいる私たちをどれほど深く憐れんで下さっているかを、この物語は明らかにするからです。

主イエスの食卓は、誰もが満腹する食卓です。ただ神の憐れみによって、私たちの欠乏が満たされる食卓です。他に何をしても満たされないことのない飢えと渴きを、私たちは抱えているのです。しかし主イエスが、私たちひとりひとりの魂の奥底にある欠乏を満たして下さいます。

主イエスのみ業を思い起こす食卓は、あふれる恵みの食卓です。私たちは、小さな満腹で満足して、すぐにまた空腹を覚える必要はありません。主の食卓から恵みがあふれ出るからです。そして同時に、やがて完成する神の国の食卓を私たちは望み見ます。先に眠りについた兄弟姉妹方と共に、主の顔を見て囲む食卓を、私たちは先どりして囲んでいるのです。

この食事は私たちからあふれ出て、神の憐れみを証ししていきます。一人また一人、この食卓に加えられる人が増し加えられていくのです。私たちが満たされ、満腹するだけでなく、私たちからあふれ出ていきます。神が与えて下さる永遠の命、救いの約束が私たちからあふれ出ていくのです。この食卓から、神の御名を誉め称えながら、私たちは与えられた道へと進み出て行きます。神の子、キリストの者とされた幸いです。声高らかに讃美しながら。

(記 岡村 恒)